

ホクレン営農支援情報

(2021年7月号)

●秋播き小麦「きたほなみ」の止葉期可変施肥《訓子府実証農場 農産技術課》

訓子府実証農場農産技術課では、6月1日に止葉期追肥を行いました。当課では2018年産から幼穂形成期並びに止葉期で衛星データを活用した可変施肥（衛星データで生育状況を判断し施肥量を変化させる）を実施しています。過年度の試験結果より、可変施肥は施肥量削減が図られ、子実タンパク質含有率の平準化が期待できる技術であることが分かりました。

今後は、当年産の収穫に向け管理作業を徹底し、高品質・安定的な小麦生産のため情報発信を進めるとともに、当該技術の他作物への応用も検討、確認していきます。



6月1日施肥風景

融雪水等により防除通路が使用不能となったため、雪解け後新たに通路を設置しています。



止葉期施肥マップ

(可変施肥区 = 青枠内。セル内の数字は硫安施肥量：kg/10a)

● RTK-GNSS を活用した田植え作業 《留萌支所 営農支援室》

JA るもいでは、今年3月に留萌支所幌糠事業所にホクレン RTK-GNSS 基地局を建て、自動操舵を利用した田植え作業を5月下旬に行いました。作業を行った生産者は「システムを導入することで、走行中の苗箱供給作業を一人で行うことができる」と便利さを実感していました。



5月21日撮影（小平町）

● 試験栽培用さつまいもの定植を実施 《苫小牧支所 営農支援室》

JA 伊達市では、今年度より試験栽培に取り組むさつまいもの定植作業を行いました。

伊達市は、北海道でも温暖な地区として知られ、野菜類の栽培が盛んです。当地で生産される品目は多岐に渡りますが、特産品となる品目が少ないことから、新たな特産品を作り、生産から販売まで一貫した流通体制を



6月1日撮影（伊達市）

構築することを目的にさつまいもの栽培を行うこととしました。

今年度は「ベニアズマ」、「ベにはるか」、「シルクスweet」の3品種を15aに定植しました。今年度は切り苗をそのまま定植し、次年度に向けて苗コスト削減のため苗の増殖を行う予定です。今後は圃場管理、生育状況調査を継続し、10月に収穫を予定しています。また、さつまいもは収穫後のキュアリング貯蔵が欠かせないことから、貯蔵方法の調査も実施する予定となっています。

●暑い季節の作業リスクに注意 《営農支援推進課》

暑い季節の農作業は、熱中症や夏バテ、日焼けなど多くのリスクがあります。

2019年8月に発行したアグリレポート20号の特集「夏作業のリスク」では、夏を乗り切るための方法が掲載されています。下記のURLからご覧いただけますので、参考にしてみてください。

バックナンバー

アグリレポート20号

特集「夏作業のリスク」

- 夏作業におけるリスクと対策
- 熱中症を防ぐための環境整備
- 夏バテしない身体づくり
- 日焼け止めの正しい使い方
- スマートウォッチに注目！



<https://www.hokuren.or.jp/kouho/ap/backnumber/20.pdf#page=4>



発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp